

第1回 歴史文化基本構想と「雄大な自然と人の営みが生み出した景観」

【問い合わせ先】

市文化財課 ☎ 31-0623

益田市と益田市教育委員会は、全国に誇ることのできる市の歴史文化を後世に伝え、活用していくため、文化財の保護と活用のマスタープランとなる「益田市歴史文化基本構想」を策定することとしています（『第五次益田市総合振興計画後期基本計画』平成28年3月）。

この構想では、これまでの、国・県・市が特に重要であると認め、類型に従って指定する狭義の文化財だけではなく、指定には至らないものや従来の種類に当てはまらないものも広く文化財として捉えていくこととしています。その際は、それらを「相互に関連性のある一定のまとまり」として捉え、ストーリーを組み立て、文化財の魅力を高めるとともに、魅力的な形でわかりやすく価値を伝えるために、関連文化財群を設定することとしています。

本連載では、「益田市歴史文化基本構想」策定の過程で見えてきた市の歴史文化の特徴としての関連文化財群のテーマ案を紹介します。

その第一は歴史文化の基礎であり、全国の中でも卓越したすばらしい自然と景観をテーマとした「雄大な自然と人の営みが生み出した景観」です。

益田市は、眼前に広がる日本海、雄大な山々（恐羅漢山、大神ヶ嶽など）、そして清流日本一の高津川、

匹見川や益田川などの河川がおりなす複雑な地形の中に、すばらしい自然景観や天然記念物が存在します。美しい海岸線（土田、三里ヶ浜、持石、飯浦の各海岸や唐音の蛇岩、鑪崎など）、西中国山地国定公園にも指定されている匹見峡や双川峡などの渓谷、栃原の高野檜や若杉の天然杉、金谷の城山桜などの巨樹があり、これらは見る人の心を奪います。

そして、そのような自然と長い歴史の中で、人々が営んできた景観にも見るべきものが多いです。津田、木部や飯浦などの湊町の景観、中垣内・大神楽の棚田や三葛・澄川などの農村・山村景観、益田の七尾城下や高津柿本神社の門前町などのまち並み景観、各地に見られる赤瓦の景観などは、益田ならではの景観であり、郷愁をかき立てます。



大神ヶ嶽（益田市指定史跡および名勝）の立岩。益田市匹見町紙祖（三坂地内）。標高 1,170 m の大神ヶ嶽は古来修験道の聖地として信仰の対象でもありました。